

## 平成の大合併と「新静岡市」

5月15日、自治体問題研究所の理事会と総会が静岡市であった。この総会で長らくつとめた理事を退任することもあり、最後の記念すべき理事会に出席した。折角の機会なので、例により早めに現地を訪れて、今年4月の静岡市と清水市の合併の「痕跡」を探し歩いた。

まずは旧清水市に行った。初めての訪問である。清水といえば「次郎長さん」と日本有数のまぐろ漁港として有名であり、一度は訪ねたいと思っていた。写真は清水駅のあたりから撮ったもので、富士山をはっきり眺めることができた。



殺風景な海岸沿いを歩いていると、古めかしい建物が見えてきた。「静岡市役所 清水総合事務所」という表示があった。今年の3月までは清水市役所であり、来年4月に政令指定都市に移行すると区役所になる。土曜日なので中に入ることもできず、時間もなかったので静岡鉄道に乗って静岡市内に向かった。



終点の「新静岡」で降りると、近くに駿府城や県庁などの官庁街があった。駿府城の公園を駆け足で回って会場のほうに足を向けると「静岡市役所静岡総合事務所」という表示の建物があった。ここも区役所になるところだ。市役所の庁舎は東静岡駅のあたりに移転するという。

この25億円の庁舎移転だけでなく、100億円のバーチャル水族館・オペラハウスなどに、400億円もの合併特例債を活用する予定だ。まさに合併バブルであり、深刻な財政危機といった合併後遺症が危惧されている。今回の駆け足の現地訪問により、政令都市「創造」型の巨大合併の問題状況の一端を見ることができた。



(6月20日 記)